
母からのお仕置き

kodomozurumuke

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

母からのお仕置き

【Nコード】

N7490R

【作者名】

kodomozurumuke

【あらすじ】

双子の兄弟、理沙と祐介には他人にいけない家庭の話があった。それは年に2〜3回、母から受ける容赦のない体罰の内容である。二人とも自分の一番大切なところをお仕置きされるのだ。その内容とは……

(前書き)

読んでいて怖くなる、股間が痛くなるかもしれない。
残酷な情景描写も大丈夫、という方はお読み下さい。

理沙と祐介は仲のよい双子の中学2年生である。二人とも市内の公立中学校に通い、成績も素行も割と良い。普通に考えれば何の問題もない少年少女である。二人の父は一流企業に勤める仕事人間で、家庭を省みることは殆どない。基本的に家庭のことは妻にまかせ、言われるままに協力できることだけはするといった類の人間である。二人の母というのがこれまたヒステリックで恐ろしい女性である。少しでも悪さをしたり成績がさがれば、容赦なく体罰を与える。女性にしては体格の良い母から受ける体罰は、中学生といえども相当辛い。しかもその体罰の内容が問題なのだ。

お仕置きをする時、母はまずズボンとパンツを脱がせ、下半身を裸にする。二人とも第二次性徴只中の恥ずかしいお年頃であるが、母はそんな心情を察することは全くない。下半身むき出しになったわが子に対し、まずは木の棒で尻を何回も叩く。思い切り振り下ろした木の棒は、尻にあたってはじけるような音を出す。かなりの力で叩いているから相当痛い。怒りの度合いによって叩く数は違うが、叩かれた直後は腫上がって座ることすらままならない程強く叩くのだ。泣いたり叫んだりしようものなら更に回数は多くなる。どんなに痛くても歯を食いしばり、耐えるしかないのだ。

そして尻たたきが終わった後、更に酷な体罰が待っている。母はそれぞれ性器に体罰を与える。理沙と祐介、それぞれにお仕置きをする道具をセットしてある。理沙のお仕置きに使うのは短めの線香・細長いピンセット・カッターの3点セットである。祐介のお仕置きには小さめのお灸・丸ペンチ・大きなハサミの3点セットである。これらを用いてお仕置きをするのだ。

理沙にお仕置きをする場合、後ろで押さえつけるのは祐介である。暴れるとかえって傷口が広がるので慎重に押さえる。母は理沙に股を大きく広げさせる。女の子が一番恥ずかしい場所が露になってしまふ。まず左手で陰核包皮をめぐり、陰核を露出させる。火をつけた線香を右手にもち、陰核に押し付けるのである。一番敏感なところに熱が加わり、理沙は大きな涙を目に浮かべる。火傷をする直前で手を離すと、今度はピンセットを左手に持ち、陰核を皮の中から引っ張り出す。これだけで相当痛い。右手にカッターを持ち、反省をしなければ切り落とすと迫る。

祐介にお仕置きをする場合、後ろで押さえつけるのは理沙である。中学2年生にしては小柄な祐介ではあるが、それでも女子の力で押さえるのは至難の業である。祐介の性器はまだ小ぶりのままであり、包皮も大部分にかかっている。母は包皮を強引に剥き上げ、亀頭を完全に露出させてしまふ。そこに熱いお灸を押し付けるのだ。終わると切断機能のついていない丸ペンチで陰茎全体をつかみ、ハサミを開いて陰茎の根本にあてがう。そして反省をしなければ切り落とすと迫る。

門限を10分破った、夕食を残した、食べる時の姿勢が悪い、確認テストで満点をとれなかった、定期試験でクラス10位に入れなかった・・・その程度のことでのこのようなお仕置きがされるのだ。小学校にあがった頃から、1年に2〜3回はこのお仕置きを受ける。二人ともお仕置きを受けた回数は10回以上になる。だから母が火傷まではさせないこと、実際に切り落とすまではしないことはわかっていった。

それでも母が手にしているものは火のついた線香やお灸であり、刃物である。ヒステリックな母が癩癩を起こしたら、万に一つのこと

とが起きないとは限らない。だから二人ともお仕置きをするといわれた時は泣いたり叫んだりは決してしない。ただただ謝り、二度と同じ過ちをしないことを誓い、母がお仕置きの手をやめてくれるようお願いばかりである。義務教育が終わるまであと1年ちよつと、あと何回この体罰を受けるのか、二人はそれだけが心配なのであった。

(後書き)

感想・ご意見お待ちしております。評価もお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7490r/>

母からのお仕置き

2011年3月21日03時54分発行